

リーディングDXスクール事業【実践事例】

大阪市立木津中学校（大阪市）【指定校】

<教育利用> 情報モラル教育『AI』との付き合い方について考える

事前準備

- ① Microsoft Formsを使った事前アンケートの実施
 - ・生成AIのイメージをMicrosoft Formsで回答
- ② 教材作成及び生成AIについて考える動画を準備
 - ・実際の新聞記事とChat GPTで生成した記事
 - ・ファクトチェックについて考える動画

学びを深めるために

生成AIとの付き合い方について、グループで意見交換して考えをまとめる。

A	B	4
<p>生成AIは、人間のように思考や感情を持っていない。あくまでプログラムで動く機械である。</p> <p>生成AIは、人間のように思考や感情を持っていない。あくまでプログラムで動く機械である。</p>	<p>生成AIは、人間のように思考や感情を持っていない。あくまでプログラムで動く機械である。</p> <p>生成AIは、人間のように思考や感情を持っていない。あくまでプログラムで動く機械である。</p>	<p>生成AIは、人間のように思考や感情を持っていない。あくまでプログラムで動く機械である。</p> <p>生成AIは、人間のように思考や感情を持っていない。あくまでプログラムで動く機械である。</p>
AI	岡田 監督	



生徒の反応

- ・生成AIで作成したかどうかを見抜くアプリがあればいいけれど、自分自身も見抜く力を付ける必要があると思いました。
- ・生成AIはあくまで道具なので、生成AI主体にならないように気を付ける必要があると思いました。



授業の流れ

1 事前アンケート結果を共有

Microsoft Formsで回答した結果をテキストマイニングでまとめて表示し、AIのイメージを共有する。



2 「生成AIとは何か」を知る

指導者より生成AIの概要や種類、関連する言葉を説明し、生成AIについて知る。



3 2つの新聞記事を見比べ、グループで考察

Google Jamboard™を使って、各グループでどちらの記事が生成AIで作成したものか根拠を明らかにして意見交換する。



4 ファクトチェックの重要性を考察

フェイク動画を見て、ファクトチェックの重要性を考え、事実を見抜く力を持つことの大切さを考える。振り返りで、生成AIとの付き合い方について、自分の考えをまとめる。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

大阪市立木津中学校（大阪市）【指定校】

<教育利用> 英語科「Program 7 A Gateway to Japan」

事前準備

① 情報モラル教育の実施

- ・生成AIの概要説明と生成AIとの付き合い方の考察

② There is/are～の英文を提示

- ・英文をどのようにプロンプトで入力すれば、Image Creator from Microsoft Designer（以下、「Image Creator」という）でイラストを出力できるかを試行して確認

学びを深めるために

作成した英文を「ChatGPT」で添削し、正しい英文かを確認する。

There is the park. Two boys are playing soccer. One boy with blue uniform of the number 10 looks very angry at other boy and he is going to kick a soccer ball. The other with blue uniform of number 9 and all back hair looks happy.

修正した文章は以下です：

"There is a park. Two boys are playing soccer. One boy, wearing a blue uniform with the number 10, looks very angry at the other boy. He is about to kick a soccer ball. The other boy, wearing a blue uniform with the number 9 and black hair, looks happy. The sun is rising on the right side of them."

修正のポイント：

"The park" を "A park" に修正しました。

説明："The" を "A" に変更して、どこかの公園を指すようにしました。

"The number 10" を "with the number 10" に修正しました。

説明："The" を "with" に変更して、ユニフォームに番号が付いていることを示しました。

"all back hair" を "and black hair" に修正しました。

説明："all back hair" を "and black hair" に変更して、髪の色を正確に表現しました。

以上が修正箇所です。他に質問があればお知らせください。

生徒の反応

- ・生成AIは考えることが早い一方で、自分が思っていることと違う返事をしたり、間違ったことを教えたりすることがあると知ることができました。
- ・生成AIの欠点も見つけることができたので、特徴をしっかりと理解する必要があると感じました。



授業の流れ

1 絵からThere is/are～の英文をグループで作成

各グループで、指導者が準備した絵をもとに英文を作成し、Microsoft Teamsの投稿を利用して提出する。



2 生徒が作成した英文から、Image Creatorで指導者がイラストを生成

指導者は提出された英文を、Image Creatorに入力し、イラストを生成する。返却されたイラストを見て、元の絵に近づけられるように、英文を修正する。



3 作成した英文をChatGPTで添削

修正した英文を、ChatGPTで添削し、その結果をプリントに書き写し、よりよい英文とはどのようなものかを知る。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

大阪市立木津中学校（大阪市）【指定校】

<校務利用> 保護者向け文書・テスト問題作成等における活用



Image Creatorを利用してしおりを作成

校外学習の目的が明確になるような表紙のイラストをImage Creatorで作成

校外学習のキーワードは次のとおりで、それを表紙のイラストで表現したいと考えた。

秋の校外学習で使う絵を描いてほしい。
大阪城 # 中学生 # 砲台
校外学習 # 秋



ChatGPTを利用してテスト問題のたたき台を作成

社会科の定期テストの問題のたたき台を作成

「愛知県で自動車の生産がさかんになった理由」という問題で、間違っている選択肢を3つ作ってほしい。
江戸時代の技術 # 海外
都心部 # 戦争をきっかけに疎開して根付いた
独自で開発したエンジン # 農業ができない

実際の問題

- (7) 愛知県で自動車の生産がさかんになった理由を以下のア～エから1つ選び記号で答えなさい。
- ア かつて都心部で行っていた技術が、戦争をきっかけに疎開して根付いたから。
 - イ 江戸時代に海外からの技術が入ってきたから。
 - ウ 農業ができないときに独自で開発したエンジンが発展して成功したから。
 - エ 織物の機械を生産する技術を活用したため。



ChatGPTを利用してMicrosoft Formsアンケートを中国語に翻訳

冬假生活調査表【ChatGPTで中国語に変換】 (冬休みの生活アンケート)
() 年 () 班 () 号 ()

冬假已經結束，新的一年開始，同時也迎來了第三學期。對你來說，這個冬假是什麼樣的呢？回顧一下冬假期間的生活，請回答以下問卷。同時，請寫下你在這一年的新目標。

1、 是否能夠過規律的生活（按照冬假筆記中制定的計劃）？

ア、能夠 イ、差不多能夠 ウ、一半左右能夠。

エ、幾乎無法實現。

⇒ * 選擇「ウ、エ」的人，為什麼無法實現呢？

2、 是否幫家裡做了事情？

ア、經常幫忙 イ、偶爾幫忙 ウ、幾乎沒有幫忙

利用した教員より



・しおりに使いたいイラストを検索しても見つからなかったので、Image Creatorを使って、何度かプロンプトを入力し、イメージ通りのイラストを作成することができました。

利用した教員より



・とても便利だと感じましたが、ファクトチェックを必ず行わないと、誤った文章や情報を生徒に伝えることになるので注意が必要です。